

中学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

保 健 体 育

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員名簿(保健体育)

分科会	地区	学校名	氏名
体育	台東	上野中学校	矢部直意
	世田谷	深沢中学校	長谷川智也
	練馬	石神井西中学校	齋藤弘圭
	日野	日野第二中学校	○齋藤裕
	東村山	東村山第二中学校	☆神山信次郎
	新島	新島中学校	渡辺浩一
保健	千代田	麹町中学校	平沢晃
	江東	深川第四中学校	小林一志
	江戸川	小岩第一中学校	本橋睦生
	武蔵野	第三中学校	浅原昇
	福生	福生第一中学校	○加藤尚志
	東大和	第三中学校	久森信

☆世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 谷合しのぶ

目次

I	研究の概要について	2
1	主題設定の理由	2
2	研究の全体構想図	3
3	研究仮説の考え方	4
II	研究の内容	5
1	教師の支援と工夫	5
(1)	学び方を身に付けるための学習のプロセス	5
(2)	教師の支援と工夫	5
(3)	教師の支援により予想される効果	6
2	学習指導計画作成上の考え方	7
3	学習過程における評価カードの工夫	7
4	選択制授業（保健分野・心身の機能の発達と心の健康）	8
(1)	意識・実態調査の結果と考察	8
(2)	保健の単元計画例 実証授業1	10
(3)	保健の学習指導計画例	12
(4)	学習資料例	13
(5)	実証授業のまとめと考察	14
5	選択制授業（体育分野・球技）	15
(1)	意識・実態調査の結果と考察	15
(2)	球技の単元計画例 実証授業2	18
(3)	球技の学習指導計画例	20
(4)	学習資料例	21
(5)	実証授業のまとめと考察	22
6	自己評価活動と学習活動との関連	23
(1)	自己評価活動を効果的に行うための学習教材の考え方	23
(2)	評価場面と学習教材の関連について	23
III	研究のまとめと今後の課題	24
1	まとめ	24
2	今後の課題	24

研究主題

生徒の自己評価活動を活用した学び方を身に付けるための支援の工夫

～ 生徒の自己評価活動への取り組みを通して ～

Ⅰ 研究の概要について

1 主題設定の理由

新学習指導要領における中学校保健体育科の目標には、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」と記述されている。

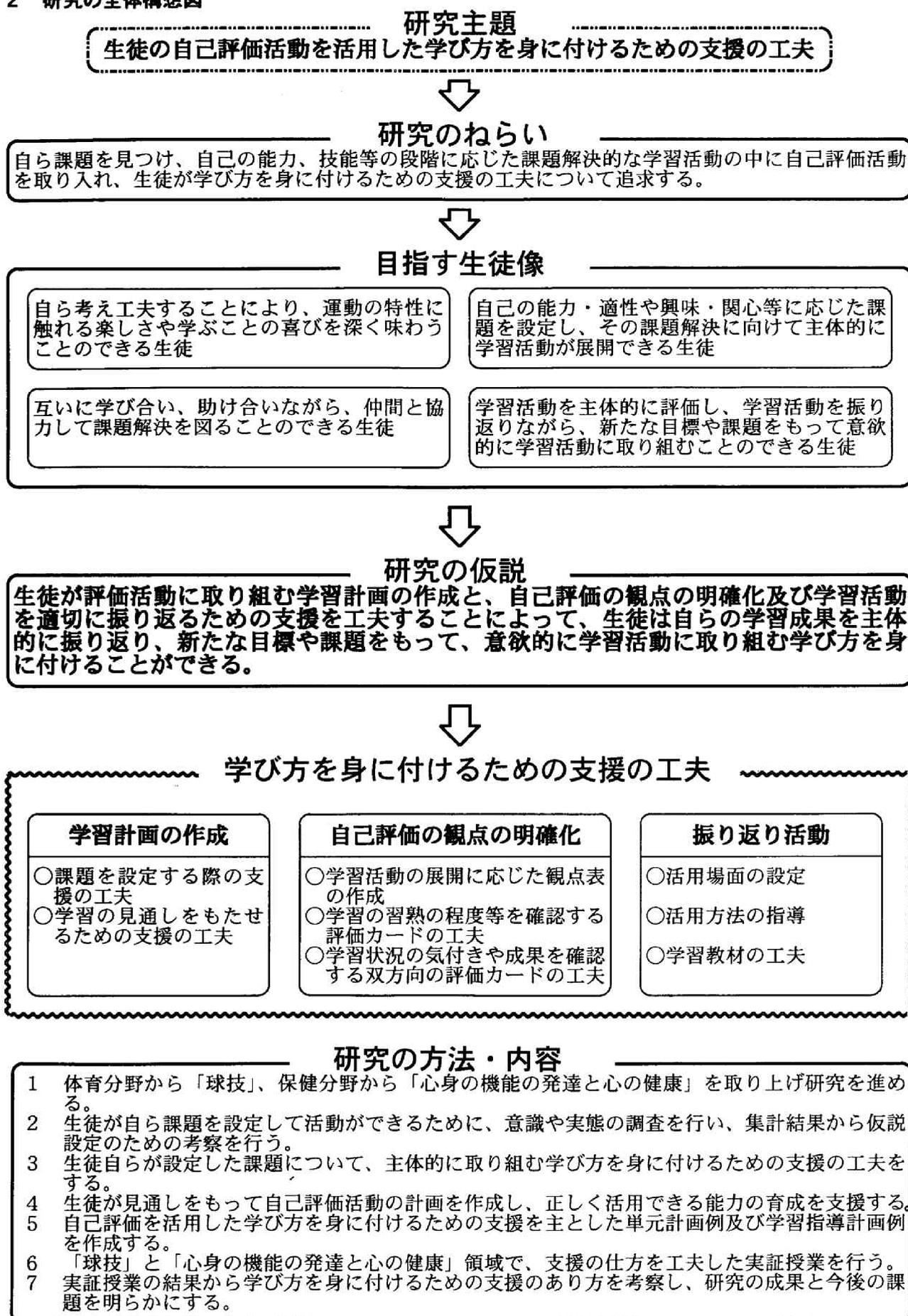
「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」学習活動の構築には、生徒が主体的に自己評価活動に取り組むことが重要であると考えた。生徒が運動や健康・安全の課題に直面したときに、自ら考え、自ら判断して課題を解決していくためには、主体的に学ぶ態度の育成が特に重要である。そして、主体的に学ぶ態度の育成には、生徒が自己の能力や適性、興味・関心等に応じて運動を選択し、運動の特性に応じた学習内容の中から自らの課題や目標を設定すること、その課題解決に向けて、学習の進め方を工夫したり、改善したりする過程を繰り返しながら、学習の仕方を身に付けていくことの2点が必要な資質・能力であると考えた。このような資質・能力を身に付けるためには、課題解決的な学習の展開を通して、常に学習活動を振り返りながら、活動の修正や改善を的確に行うことのできる力が重要になる。

そこで、生徒が自主的・主体的に課題解決的な学習活動を展開していくためには、その学習過程の中に「自己評価活動」を取り入れることが重要であると考え、「生徒の自己評価活動の活用」に視点をおき、本研究を進めることとした。

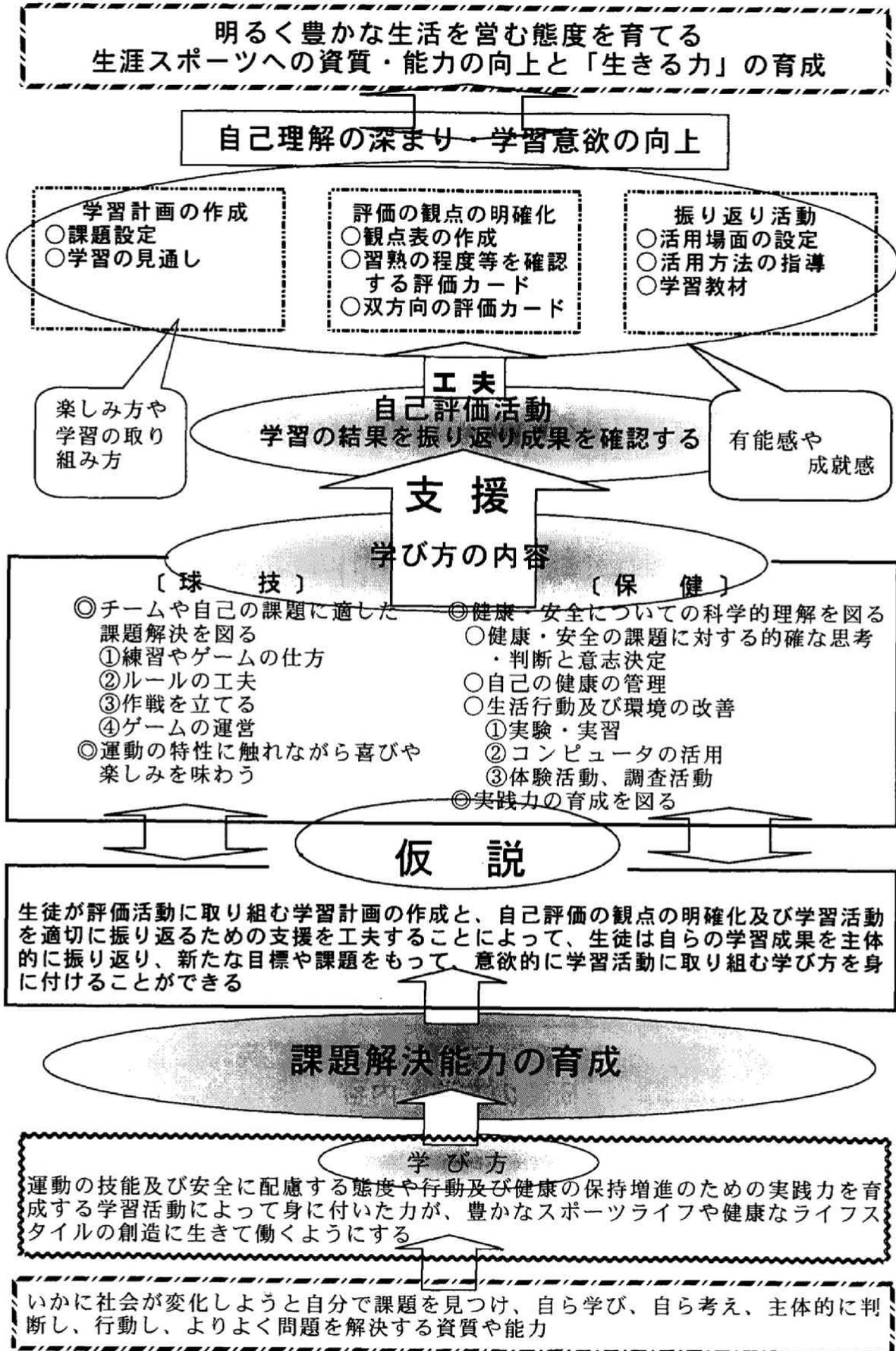
生徒は学習活動の中に自己評価を取り入れることによって、現在取り組んでいる課題に対して、学習の習熟の程度や理解の深さ等を確認しながら学習活動を進めることができる。また、自分のよさに気付いたり、新たな自分を発見したりすることが自己理解を深め、有能感を高めていく。それが、学習活動に課題や目標を明確にもって、意欲的に取り組む態度を育成することにつながる。

このように、生徒が自己評価を繰り返しながら、的確に自己を評価する能力を培うことは、「生きる力」の育成に欠くことのできないものであり、「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ための極めて重要な力であると考え、本研究主題「生徒の自己評価活動を活用した学び方を身に付けるための支援の工夫」を設定した。

2 研究の全体構想図



3 研究仮説の考え方



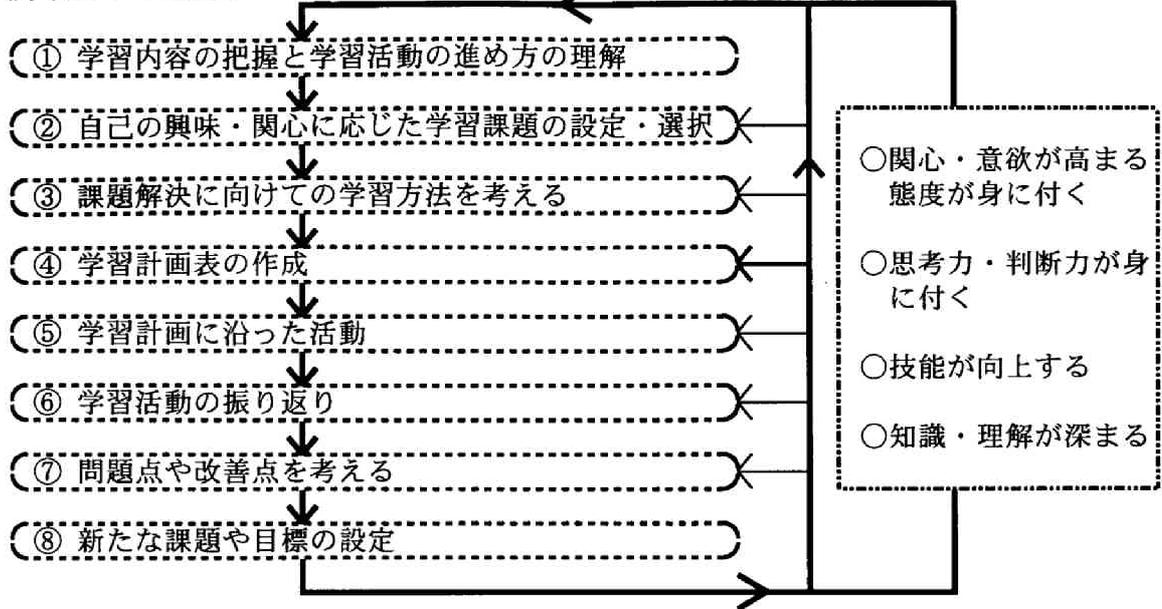
II 研究の内容

1 教師の支援と工夫

(1) 学び方を身に付けるための学習のプロセス

生徒が『主体的に学習に取り組む』ためには、自己の課題を解決するための学び方を生徒自らが身に付けることが必要である。そのためには、次のような学習プロセスが必要と考え学習活動と評価活動を実践した。

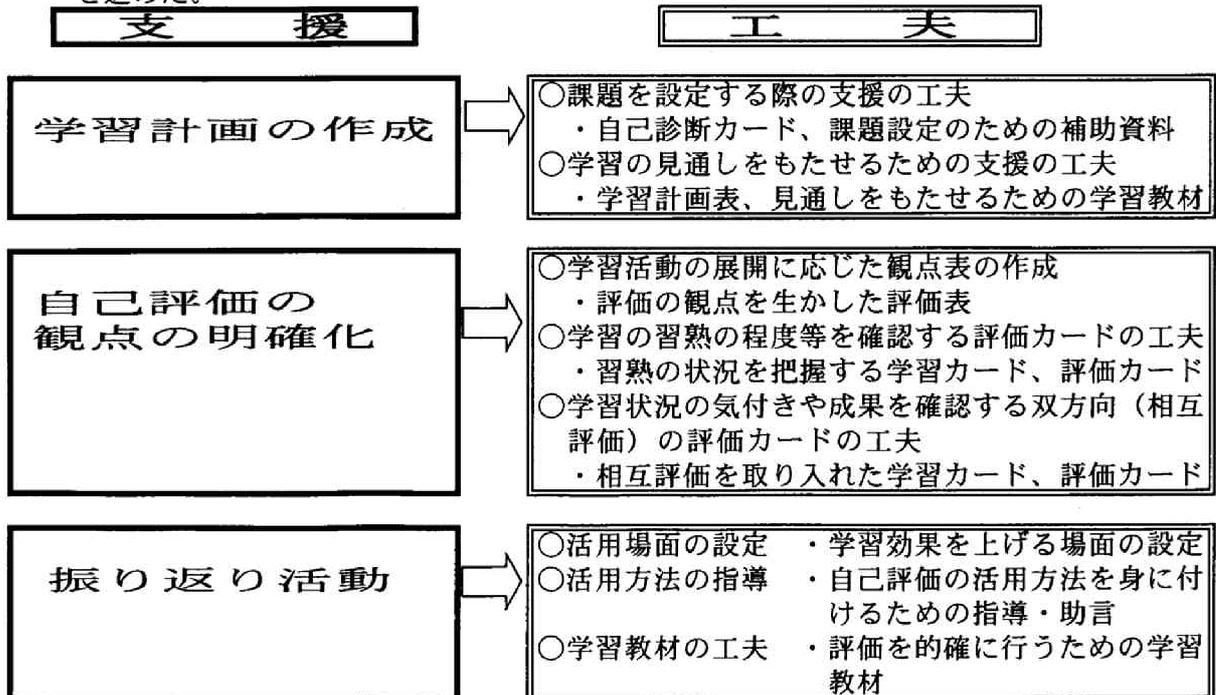
《学習のプロセス》



(2) 教師の支援と工夫

本研究では、生徒が、『主体的に学習に取り組む』ために、『生徒の自己評価活動を活用した学び方を身に付けるための支援の工夫』と主題を設定した。

そこで、生徒が自己評価活動を行いながら、学習活動を自主的・主体的に進めていくことのできる力を身に付けるための支援を、以下のように3つの視点に分けて考え研究を進めた。



(3) 教師の支援により予想される効果

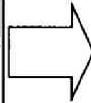
自己評価活動を支援する工夫のポイント

- 生徒同士の相互評価を積極的に取り入れて、教師の評価を加味した相互評価を行う。
- 生徒が学習活動を確認したり、自己理解を深めるために役立つ場面で活用する。

工夫

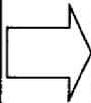
効果

- 課題を設定する際の支援の工夫
 - ・課題を設定するための補助資料の作成や自己診断カード等の工夫
- 学習の見通しをもたせるための支援の工夫
 - ・見通しをもつための学習計画表の作成や学習教材の工夫



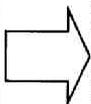
- 運動に対する習熟の状況を確認する補助資料の活用により、これから学習する運動の目的や課題が明確になる。
- 自己診断カードの活用で、既習経験をもとにした自己理解を的確に図ることができるようになる。
- 自己の興味・関心に応じた課題を把握することで、主体的に学習活動に取り組むことができるようになる。
- 補助資料の活用により、学習内容の理解がより一層深まるようになる。
- 学習の見通しをもつことで、学習活動を効率的に進められるようになる。

- 学習活動の展開に応じた観点表の作成
- 学習の習熟の程度等を確認する評価カードの工夫
- 学習状況の気付きや成果を確認する双方向（相互評価）の評価カードの工夫



- 学習の展開に応じた自己評価をすることで、正確な自己分析や自己理解をすることができ、学習への意欲が高まるようになる。
- 習熟の程度を確認することにより、技能・知識の習熟の程度が異なった生徒への対応が的確に図れるようになる。
- 双方向のカードにより、
 - ①学習のねらいや目的について、相互に理解することができる。
 - ②互いの学び合いを深め、よりよい人間関係をはぐくむことができるようになる。
 - ③他者を見ることで、自己を振り返ることができるようになる。

- 活用場面の設定
 - ・学習効果を上げるための適切な評価場面の設定の工夫
- 活用方法の指導
 - ・自己評価の活用方法を身に付けるための指導・助言の工夫
- 学習教材の工夫
 - ・振り返り活動を的確に行うための教材の工夫



- 活用場面の設定により、
 - ①自己の技能、知識等の理解および分析をすることで、自己理解が深まるようになる。
 - ②自己評価の方法を理解することで、学習活動に対する自己の意識や目的が明確になる。
 - ③自己評価への興味・関心が高まり、意欲的に取り組むことができるようになる。
 - ④常に課題に戻り、課題を見直すようになる。
 - ⑤新たな課題の設定を通して、学習の深まりや広がりが期待できるようになる。
- 活用方法の指導により、自己評価の有効な活用方法を身に付け、他の場面でも活用できるようになる。
- 学習のねらいや目的に応じた教材の工夫により、自己理解が深まり自己の学習状況が的確に把握できるようになる。

2 学習指導計画作成上の考え方

教育課程審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」の「第1章の第2節これからの評価の基本的な考え方の『3指導と評価の一体化』」には次のような一節がある。「学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されている。すなわち、指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である（いわゆる指導と評価の一体化）。評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切である。また、児童生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義がある。」

そこで、本研究では、次の3点を基本的な考え方として学習指導計画を作成した。①指導に生かす評価を充実させるために、指導の目的やねらいと評価の観点との関連をより明確に図る指導計画が必要であるという考え方から、指導計画に生徒と教師双方が行う評価の項目を取り入れた。②学習指導の過程における評価の工夫を一層進めるために、学習の過程の評価を、教師は「診断的評価・形成的評価・総括的評価」とし、生徒は「はじめの評価・学習の中での評価・まとめの評価」として取り入れ、学習の各段階に応じて適切に評価活動の場面を配置した。③自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すために、単元や一単位時間の区切りに、あらかじめ評価活動を計画的に取り入れた。

3 学習過程における評価カードの工夫

評価カードを工夫し、自己評価活動を効果的に行うためには、自己評価の観点を明確化させる必要がある。また、生徒が絶えず自己の学習を振り返り、次のステップの活動へと生かすことができるようにするためには、学習の展開に応じた評価内容でなければならない。評価カードの作成に当たっては、単に観点の項目のみの記述で評価の判断を生徒個人の感覚に任せるのではなく、到達度のわかる内容とすることが大切である。そのことによって、より正確に自分の学習の状況を把握することができ、学習に対してより一層の関心や意欲が高まり、知識や技能等も身に付いてくる。また、相互評価を取り入れ、互いの学習状況を見合うことで、学び合いが深まるとともに、自己の学習状況もより深く振り返ることができるようになる。

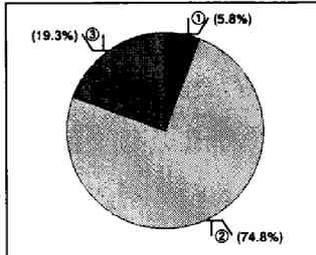
さらに、教師は、学習評価のカードの記載事項の分析を通して、生徒一人一人の心理的な発達状況や社会的な広がりや深まり、さらには、教科としての技能的な高まり等を的確に読みとり、指導・助言・励まし・賞賛等に生かしていくことが大切である。この双方向の評価活動（心のキャッチボール）が機能したときはじめて、生徒を伸ばす評価カードとなる。

4 選択制授業（保健分野・心身の機能の発達と心の健康）

(1) 意識・実態調査の結果と考察

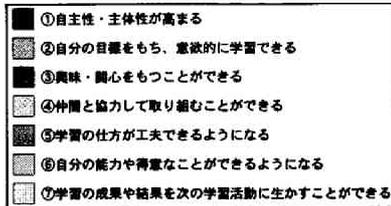
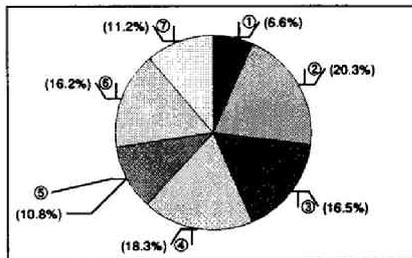
- ① 目的：研究員が所属する各地区の各学校の教員と生徒を対象に、保健の授業の実態及び今後のあり方を調査するとともに、自己評価活動を取り入れた場合の効果と課題について把握する。
- ② 対象：東京都内公立中学校保健体育科教員 62 名、生徒（第 1～3 学年男女） 3206 名
- ③ 生徒対象の調査結果

ア 保健の授業をどのような学習形態で行ってみたいですか。



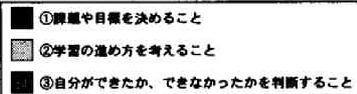
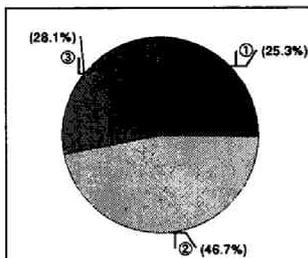
「グループ」で学習したいという回答は全体で 74.8 %、各学年とも 70 % を越えた。「一斉授業」を希望している生徒の回答では、全体で 19.3 %、各学年とも 30 % 以下であった。「ひとり」という学習形態を回答した者は、全体で 5.8 % で、各学年とも 10 % 以下の回答であった。

イ 自分で学習を評価する方法（自己評価活動）を取り入れた学習をすると、どのようなよさがあると思いますか。（複数回答）



回答数をもっとも多かったのは「自分の目標をもち、意欲的に学習できる」で各学年とも 20 % 近くである。次に「仲間と協力して取り組むことができる」「興味・関心をもつことができる」「自分の能力や得意なことができるようになる」という結果であった。

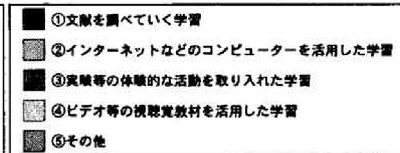
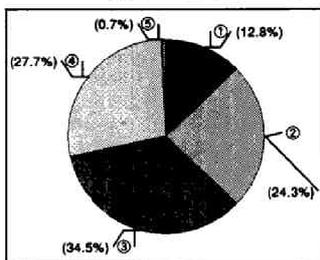
ウ 自己評価の難しい点はどんなことですか。



各学年とも「学習の進め方を考えること」が 1 番である。次に「課題や目標を決めること」「自分ができたか、できなかったかを判断すること」の順番であった。

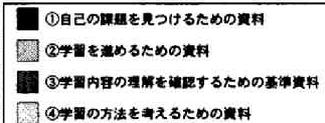
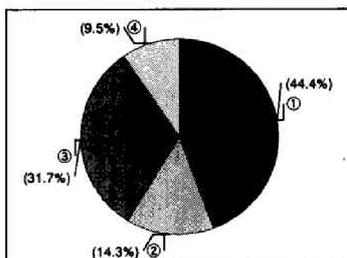
④ 教師対象の調査結果

ア 生徒が課題をもち主体的に学習を進める学習を実施するためには、どのような学習活動が必要だと思いますか。



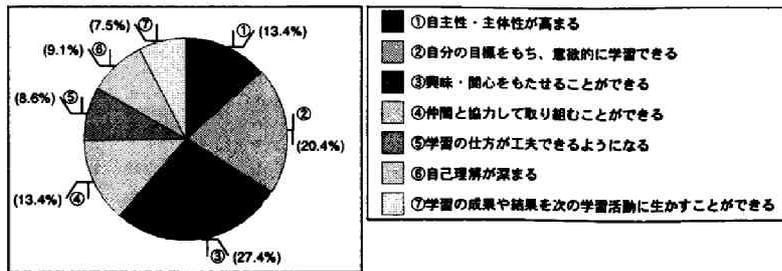
「実験や実習等の体験的な活動を取り入れた学習」が 34.5 %、「ビデオ等の視聴覚教材を活用した学習」が 27.7 %、「インターネット等のコンピューターを活用した学習」が 24.3 %、「文献を調べていく学習」が 12.8 % であった。

イ 保健の授業で生徒の自己評価活動を支援するためにはどのような資料が必要ですか。



「自己の課題を見つけるための資料」がもっとも多く 44.4 % で、「学習の内容の理解を確認するための資料」が 31.7 %、「学習を進めるための資料」が 14.3 %、「学習の方法を考えるための資料」が 9.5 % であった。

ウ 生徒が自己評価活動を活用した学習活動を実施した場合に、どのような効果が期待できますか。



「興味・関心をもたせることができる」が27.4%、「自分の目標をもち、意欲的に学習できる」が20.4%、「自主性・主体性が高まる」・「仲間と協力して取り組む」がともに13.4%、「自己理解が深まる」が9.1%、「学習の仕方が工夫できるようになる」が8.6%、「学習の成果や結果を次の学習活動に生かすことができる」が7.5%であった。

エ 自己評価活動を活用した学習活動を実施した場合、どのような課題が考えられますか。(自由記述式)

「課題の設定や理解に多くの時間を費やす」「評価活動に時間を多くとられてしまう」などの時間的な問題があるという面と、「評価規準を徹底することが難しい」・「自己評価がきちんとできないと取り組む意味がなくなる」という、評価の方法に関することと生徒が本当に取り組めるかという二つの面に対する課題が主にあげられていた。

⑤ 考察

ア 授業の実施形態に望まれるもの

教師も生徒も従来の一斉授業よりも、グループ学習を中心とした授業形態を望んでいる。つまり、学習形態の主体が教師からの知識受け渡しの方法よりも、生徒自らが仲間との協力で課題を設定し探究していくという、主体的な学習・協力的な学習に要望が移ってきていることが推測できる。また今回の調査では、教師には一斉授業とグループ学習の併用をあげている者もある。そこからは、全面的なグループ学習では、「学習内容が確実に押さえられるのか」という学習内容の習得に不安が残るという考えが伺える。だが、今後の授業形態は、グループ学習と一斉学習の両者をバランスよく取り入れながらも、生徒が主体的に学習に取り組む形態にしていくことが必要である。

イ 生徒が主体的な学習を進めるために

調査資料としては、インターネットの使用が最も多く、体験的学習方法として実験・実習の活用が望まれているという結果が得られた。とくに生徒はコンピュータの利用に大変興味が高い。

学習形態を生徒の主体的な活動に移していく場合、生徒自らが学習の課題を決め、計画を立てて実践していくことになる。それにともない、自己の理解度・達成度などを的確に評価する活動が必要となる。しかしながら、自己評価活動を取り入れた授業は、ほとんど実施されていないのが現状である。

ウ 自己評価活動を取り入れた授業の実施にあたって

教師も生徒も自己評価活動を取り入れた授業の実施にあたっては、アンケート項目にある「興味・関心をもたせることができる」「自分に目標をもち、意欲的に学習できる」「自主性・主体性が高まる」「仲間と協力して取り組む」などに多くの回答が集まった。自己評価活動を取り入れた授業への効果や期待は、教師も生徒も大きなものがあると思われる。

エ 自己評価活動の実施上の課題について

教師はアンケート項目の「課題の設定や理解に多くの時間を費やす」「評価活動に時間を多くとられてしまう」「評価規準を徹底することが難しい」などに課題があるとしている。また、生徒は、「学習の進め方がわからない」「課題や目標を決める方法がわからない」という項目に回答が多かった。これらの課題を解決するため、明確な評価項目の設定や活用方法等を確立し、学習活動が円滑に進むための支援を行うことが必要である。

オ まとめ

今後、よりよい保健の授業を構築していくにあたり、今回の調査結果から、自己評価活動を取り入れたグループ学習という授業形態が、最も要望されていることが明らかになった。その実現のためには、資料の効果的な利用方法や自己評価の項目の明確化と活用方法、時間的配分等、さまざまな場面での教師の適切な支援の工夫が必要であり、指摘された課題を克服していく必要がある。

(2) 保健の単元計画例 実証授業1 (第1学年対象 16時間扱い)

- ① 単元計画作成の考え方
 - 課題解決に向けた自己評価活動の充実を図るため、評価の観点を明確にし、自己評価の方法と活用の仕方を指導して、生徒が学習活動を主体的に振り返ることができる。
- ② 単元名「心身の機能の発達と心の健康」
- ③ 学習のねらい
 - 心身の機能は生活経験・年齢などの影響を受けながら発達し、身体と精神は互いに密接な関係があることを理解することができる。
 - 心の健康を保つためには心身の調和を保つことが大切であることを理解することができる。
 - 学習活動の中に自己評価を取り入れることで、生徒が自己を振り返りながら学習を進めることができる。

段階	時間数	生徒の学習内容		教師の指導内容		
		学習活動	評価の観点の明確化への支援と工夫		評価	学習計画作成への支援と振り返り活動への支援の工夫
			生徒の評価活動	学習教材		
学習	1	<p>これから取り組む保健の内容と学習活動に対する興味、関心を高めるとともに、基礎知識を確認する</p> <p>○保健学習に対する知識の確認をする。</p> <p>○学習の進め方について理解する。</p> <p>○評価活動について理解する。</p>	<p>はじめの評価</p> <p>これから学習する内容の準備状況を把握する</p>	<p>診断的评价</p> <p>学習準備状況の把握</p>	<p>学習の見直し</p> <p>活用方法の指導</p>	<p>○学習活動の進め方や学習方法について、見直しをもって意欲的に取り組めるように学習教材を活用し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>○生徒の振り返りを明確にし、次回の活動に生かせる自己評価への取り組み方法と活用の仕方を説明する。</p> <p>○学習資料を学習計画に照らし合わせ活用させる。</p> <p>○自己の学習の準備状況を確認させる。</p>
			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○心身の機能の発達と心の健康について興味・関心をもち学習に取り組もうとしている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○心身の機能の発達と心の健康についての内容と学習の進め方を理解している。</p>	<p>学習の見直し</p>		
	3	<p>自己の興味・関心・知識を把握し課題設定に向けて学習計画を作成する</p> <p>○課題設定を行う。</p> <p>○学習グループの編成を行う。</p> <p>○学習計画を作成する。</p>	<p>個人、グループに応じた課題の設定と学習計画を作成する</p>	<p>適切な課題の設定と学習計画の作成</p>	<p>課題設定</p> <p>学習の見直し</p>	<p>○自己の興味・関心・知識に応じた課題設定ができるように資料を活用させる。</p> <p>○グループや自己の力を的確に把握して課題解決学習ができるように学習資料を活用させる。</p> <p>○自己の学習準備の状況の確認が的確にできるように学習資料を活用させる。</p> <p>○課題設定のねらいを明確にし、自己の学習計画作成に向けて、調べる方法等を助言する。</p>
			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○心身の機能の発達と心の健康の学習について仲間と協力して取り組もうとしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○心身の機能の発達と心の健康について、自分の知識や経験及び興味・関心に基づいて課題を設定することができる。</p> <p>○課題解決に向けた学習計画を立てることができる。</p>	<p>学習の見直し</p>		
学習	5	<p>課題解決に向けての調査活動で集めた情報を整理しまとめる</p> <p>○調査活動と調査内容の整理を行う。</p>	<p>学習中での評価</p> <p>学習計画を基に積極的に仲間とふれ合いながら情報の収集と整理をする</p>	<p>形成的評価</p> <p>仲間と協力した学習活動の展開</p>	<p>学習の見直し</p> <p>活用方法の指導</p> <p>課題設定</p>	<p>○個人やグループの課題を解決するための学習方法の進め方について、グループごとに説明する。</p> <p>○学習の状況を的確に振り返られるように、自己評価カードの活用について説明する。</p> <p>○新たな疑問、調査内容の解決に向けての目標の設定や学習計画の作成において、仲間と協力したり学習資料を活用したりすることに気付かせる。</p>
			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己の課題解決に向けて、主体的に調査活動に取り組もうとしている。</p> <p>○グループにおける自分の役割を自覚して、仲間の意見や考えを聞いたり、資料を活用したりしながら話し合いに参加しようとしている。</p> <p>○調べた内容を整理して自分の意見を発表しようとしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○資料や知識をもとに予想したり、整理したりして傾向や原則等を見つけていることができる。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○友達の見表や自己の学習活動を通して、心身の機能の発達と心の健康についての知識を身に付けている。</p>	<p>学習の見直し</p>		
学習	7	<p>学習活動を振り返り、より深まりのある内容になるよう学習計画を見直す</p> <p>○学習活動を見直す。</p> <p>○学習活動の中間発表を行う。</p>				

	返り	<p align="center">評価</p> <p>調査活動の結果を自己評価・相互評価する</p>		<p>双方向の評価カードの工夫</p>	<p>○課題の設定や学習計画の作成において、仲間と協力することを気付かせる。</p>
II	調べ学習	<p>課題解決に向けての調査活動で集めた情報を整理しまとめる</p> <p>○調査活動と調査内容の整理を行う。</p>	<p align="center">学習の中での評価</p> <p>学習計画を基に調べ方を工夫しながら積極的に取り組んでいる</p> <p align="center">相互評価</p> <p>仲間と協力した学習活動の展開と学習内容の整理</p>	<p>学習の見通し</p>	<p>○グループや自己の力を的確に把握して課題解決学習ができるように、学習資料を活用させる。</p>
	振り返り	<p>学習活動を振り返り、より深まりのある内容になるよう学習計画を見直す</p> <p>○学習活動を見直す。</p> <p align="center">評価</p> <p>新たな学習計画や学習の深まりを自己評価・相互評価する</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己の課題解決に向けて、主体的に調査活動に取り組もうとしている。</p> <p>○グループにおける自分の役割を自覚して、仲間の意見や考えを聞いたり、資料を活用したりしながら話し合いに参加しようとしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○資料や知識をもとに予想したり、整理したりして傾向や原則等を見つけることができる。</p> <p>○学習したことを日常生活に当てはめて、健康についての適切な行動を判断し、選択することができる。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○心身の機能の発達と心の健康についての知識を身に付けている。</p>	<p>活用方法の指導</p> <p>学習の見通し</p> <p>双方向の評価カードの工夫</p>	<p>○学習の状況を適切に振り返られるように、自己評価カードの活用方法について助言する。</p> <p>○個人やグループの課題を解決するための学習方法の進め方について、グループごとに説明する。</p> <p>○課題の設定や学習計画の作成において、仲間と協力することに気付かせる。</p>
まと	学習成果の発表	<p>学習内容をまとめ、その成果を発表するとともに、互いの学習内容を学び合う</p> <p>○発表準備（整理とまとめ）を行う。</p> <p>○グループ発表を行う。</p> <p>○発表内容をまとめる。</p> <p align="center">評価</p> <p>発表の内容を相互評価する</p>	<p>各グループの内容をまとめ評価する</p> <p align="center">発表会記録表</p> <p align="center">発表会振り返り表</p> <p>適切な発表内容と学習内容の理解</p>	<p>学習の見通し</p> <p>活用方法の指導</p> <p>双方向の評価カードの工夫</p>	<p>○調べた内容を適切に伝えられるよう発表方法を工夫させる。</p> <p>○伝える内容の整理とまとめ、発表の方法等、相手にわかりやすい内容となるように助言する。</p> <p>○発表内容をまとめ、自己の知識として身に付けられるように、資料を活用させる。</p> <p>○学習カードを活用して、学習に対する互いの取り組みの様子を振り返らせる。</p>
	補充まとめ	<p>学習内容の理解をより深めるとともに知識として身に付ける</p> <p>○学習内容について補充学習を行う。</p> <p>○学習活動のまとめを行う。</p> <p>○確認のテスト</p> <p align="center">評価</p> <p>学習の成果を自己評価・相互評価する</p>	<p align="center">まとめの評価</p> <p>学習内容の確認を通して、正しい知識を身に付けるとともに日常生活に生かすことができる。</p> <p align="center">確認表</p> <p align="center">総括的评价</p> <p>学習内容の理解と態度の育成</p>	<p>活用方法の指導</p> <p>活用方法の指導</p> <p>双方向の評価カードの工夫</p>	<p>○学習内容の理解を深めるために、全体でまとめを行う。</p> <p>○学習活動を確認し、次回への意欲をもたせるとともに今後の課題を確認するよう評価資料を活用させる。</p> <p>○学習カードのまとめを通して、活動を振り返り、自己の変容に気付いたり学習に対する成就感をもてるようにする。</p> <p>○学習カードを活用して、学習に対する互いの取り組みの様子を振り返らせる。</p>

(3) 保健の学習指導計画例 (16時間中の7時間目)

- ① 学習のねらい
 ○自己の課題を解決するために学習活動を振り返り、新たな課題や目標をもつことができる。
 ○班として学習状況を把握し、更に学習を振り返るとともに、中間発表を通して、新たな課題や目標をもつことができる。
 ○次時の授業に向けて意欲をもち、より深まりのある学習活動ができる。

段階	学習形態	生徒の学習内容			教師の指導内容		
		学習活動	評価の観点の明確化への支援と工夫		種類	学習計画作成への支援と振り返り活動への支援の工夫	
			生徒の評価活動	学習教材			教師の評価活動
はじめ	共通学習Ⅰ	<p>本時の学習について理解する</p> <p>○学習の進め方について理解する。 ○学習活動を振り返ることの意義を知り、課題を確認する。</p>	<p>はじめの評価</p> <p>本時の流れをつかむ</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○本時の流れをつかみ、進んで学習に取り組もうとしている。 【知識・理解】 ○学習の進め方を理解している。 ○学習活動を振り返ることの意味を理解している。</p>	<p>学習資料 No.6 学習計画表</p>	<p>診断的評価</p> <p>本時の流れの理解</p>	<p>学習ノート</p> <p>学習の見直し</p> <p>活用方法の指導</p> <p>評価カード</p>	<p>○学習活動の進め方や学習方法について、見直しをもって意欲的に取り組めるように、学習資料や教材を活用し、生徒の学習意欲を高める。 ○学習資料を使い、生徒の振り返りを明確にし、次回の活動に生かせる自己評価の取り組み方と活用の仕方を説明する。 ○学習資料を活用して、本時の学習内容の確認が的確にできるようにする。</p>
		<p>自己の学習活動を振り返り、これからの学習のすすめ方を考える (自己評価)</p> <p>○これまでの学習計画を振り返り、課題解決に向けての取り組みについて再確認をする。 ○学習計画の修正及び新たに組み込む課題や目標を設定する。 ○学習カードや学習に対する自己の疑問をもとに学習の目標や進め方を設定する。</p> <p>グループでの学習活動を振り返り、進行状況を発表する (相互評価)</p> <p>○個人の学習状況を参考に、グループとしての学習活動を振り返る。 ○今までのグループ学習の状況を発表する。</p>	<p>学習の中での評価</p> <p>これまでの学習活動を振り返り、新たな目標や課題、進め方を考える</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○学習活動に対して意欲的に振り返り、更に深く追求しようとしている。 【思考・判断】 ○自己の学習活動を振り返り、改善点を見つけ、改善策を考えることができる。 ○自分の学習したことをわかりやすくまとめることができる。 ○グループの学習状況をわかりやすくまとめ説明できる。 【知識・理解】 ○振り返り活動の意味を理解して、適切に取り組んでいる。 ○他のグループの学習の内容を理解し、それを自己のグループに取り入れ、学習活動に生かしている。 ○発表を通して、自分の調べた内容について理解を深めている。</p> <p>○相互評価 互いに進行状況を確認し合い、学習方法などについて助言を行う。</p>	<p>学習資料 No.6 学習計画表</p>	<p>形成的評価</p> <p>学習活動の振り返りと学習の進め方の確認</p>	<p>学習ノート</p> <p>学習の見直し</p> <p>活用場面の設定</p> <p>活用方法の指導</p> <p>活用場面の設定</p>	<p>○課題解決に向けて調査・研究・内容・方法が適切であるかを、学習資料を使用して考えさせる。 ○新たな目標・課題及び学習計画を作成するために、学習資料を参考にしよう伝える。 ○新たな疑問や調査内容の解決に向けての目標設定や学習計画の作成において、仲間と協力したり学習資料を活用することに気付かせる。 ○つまづいている生徒には、教科書や学習資料を使い、課題の設定や調べ方を振り返らせる。 ○学習資料や友人からの評価や助言を、今後の調査・研究に生かせるように声かけをする。</p>
まとめ	共通学習Ⅲ	<p>本時の学習を振り返り、次時の課題をもつ</p> <p>○学習活動を振り返り、次の学習活動に向けて、目標を明確にし、計画を立てる。</p> <p>本時の学習を振り返る (自己評価)</p>	<p>まとめの評価</p> <p>学習活動を振り返り、新たな課題や目標を設定する</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○これまでの学習について、意欲的に振り返り、学習目標や学習計画を立てようとしている。 ○次時の授業に向けて意欲を新たに、取り組もうとしている。 【思考・判断】 ○自己の学習活動を振り返り、問題点を発見し、その改善を図ることができる。 ○今までの学習活動から、健康について身に付けた知識を日常生活の中で生かすことができる。 【知識・理解】 ○振り返り活動の意味を理解して、適切に取り組んでいる。</p>	<p>学習資料 No.7-7 振り返り用紙</p>	<p>総合的評価</p> <p>本時の学習活動の振り返りと次時の課題の明確化</p>	<p>評価カード</p> <p>活用方法の指導</p> <p>学習の見直し</p> <p>活用場面の設定</p>	<p>○評価カードを使って、自己の授業の取り組みについて振り返らせる。 ○新たな課題や目標を設定できたかを確認させる。 ○新たな課題や目標が、次時の授業の意欲につながることを伝える。 ○新たな興味・関心・知識に応じた課題設定ができ、次時への意欲をもたせるように評価資料を活用させる。</p>

- ② 本時の評価
 ○今までの学習活動を振り返り、学習計画を見直すことができたか。
 ○仲間と協力をして学習状況を振り返り、自己の課題解決に向けて工夫・改善を図ることができたか。
 ○次時の授業に向けて、自己の課題や調べる内容を明確にすることができたか。

(4) 学習資料例

○学習計画表（振り返りの場面で学習計画表に取り入れたもの、5～10時間目）

No. 6

私の課題 → [] → 完成した課題

日付・学習段階	学習の計画や調べの方法、事前に準備しておくこと	学習活動を振り返る
/ 調べ学習① (5時間目) 学習活動の目標	<計画>	
	<調べる方法>	
	<事前準備>	
/ 調べ学習② (6時間目) 学習活動の目標	<計画>	
	<調べる方法>	
	<事前準備>	
<p><中間の振り返り> 月 日 (7時間目)</p> <p>1. 最もが調べたのは [] についてです。</p> <p>2. 調べたのは [] を調べました。</p> <p>3. これまでにこんなことが分かりました (分かったこと、おもしかったことなどを簡単に書こう)</p> <p>[]</p> <p>4. これまでの学習をさらに進め</p> <p>[] についても調べてみようと思っています。</p>		
/ 調べ学習③ (8時間目) 学習活動の目標	<計画>	計画の変更し
	<調べる方法>	
	<事前準備>	
/ 調べ学習④ (9時間目) 学習活動の目標	<計画>	計画の変更し
	<調べる方法>	
	<事前準備>	

※計画…その段階に何をどこまで調べることができるだけ具体的に考えよう。グループの中で調べた方法…インターネットや辞書の活用など。事前準備…自分の持っている資料や地域の施設等に人について調べられることあればやろう。

○毎時間ごとの自己評価表（自己の習熟の状況を確認する、7時間目）

No. 7-1

☆☆授業を振り返ってみよう☆☆ (1時間目)

月 日 ()

	すごくよくできた	よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	ぜんぜんできなかった
活動の準備	5	4	3	2	1
健康を保つための方法や、不健康になる原因等について考えてみた。	5	4	3	2	1
健康の大切さがよくわかった。	5	4	3	2	1

感想 []

先生から []

1	5	4	3	2	1
2	5	4	3	2	1
3	5	4	3	2	1
4	5	4	3	2	1
5	5	4	3	2	1
6	5	4	3	2	1
7	5	4	3	2	1
8	5	4	3	2	1
9	5	4	3	2	1
10	5	4	3	2	1
11	5	4	3	2	1
12	5	4	3	2	1

○単元のまとめりごとの自己・相互評価表（双方向のの評価カード、7時間目）

No. 7-A

調べ学習1を振り返ってみよう

今日の学習活動で、自己評価～課題発見～課題解決のための努力という知識を得るのと同時に自ら学ぶ力が身についたのではないだろうか。振り返りを通して、新たな課題が見つかったり、今までの活動からの学びにいかすことができたこととしたいと思います。今までの学習活動を振り返って、自分や仲間の取り組みを評価をしてみてください。

1. 自己評価 (よくできた:A できた:B できなかった:C)

楽しく学習活動に取り組むことができた。

意欲的に学習活動を行うことができた。

学習したことをさらに深めていくことができた。

学習計画表を活用できた。

自己評価をいかして学習活動を振り返ることができた。

新たな課題を発見したり、学習が深まった。

仲間と協力して取り組めた。

調べた情報を整理したり、まとめることができた。

資料などを上手に活用できた。

健康に過ごすための知識が身についた。

適切な自己評価を行うことができた。

2. 相互評価 (グループの仲間の取り組みについて)

グループの仲間	よくできた	できた	できなかった
課題を解決するために、積極的に取り組んでいた。			
課題の解決に向けて仲間と相談したり、協力して取り組めた。			
課題を調べるための工夫をしていた。			

3. 今回の学習活動を通しての感想

感想 []

先生から []

最終チェック

1. 調べ学習1についての振り返り

2. 知識の定着 (それぞれの課題を解決して)

3. 活動の振り返り

4. 健康の授業で学んだことは生活に活かせるか

5. 健康の授業はどのように学べたか

6. 健康の授業はどのように学べたか

7. 健康の授業はどのように学べたか

○統括的評価表（16時間目）

(5) 実証授業のまとめと考察 (○は成果、●は課題)

① 結果

	学習計画作成の支援	自己評価の観点の明確化	振り返り活動への支援
はじめ	<p>学習計画表(学習記録)の確認</p> <p>○学習計画表(学習の記録)を確認することで、本時の学習内容を理解することができた。</p>	<p>前回の自己評価カードの確認</p> <p>○前回の自己評価カードを確認することで、本時の自分の学習状況の確認ができた。</p>	<p>前回の授業の振り返り</p> <p>○前回の授業を振り返ることで、自分の学習状況や課題を再確認し、新たな学習方法を考えることにつながった。</p>
なか	<p>資料活用への支援</p> <p>○調査方法としてインターネットや文献の活用や実験を取り入れることで、次の課題が明確になり、新たな課題の発見が行えた。</p> <p>進行状況の把握</p> <p>○グループごとの進行状況を確認し、適切なアドバイスを与えることで学習の計画がステップアップした。</p> <p>発表の場の設定</p> <p>○学習の成果を発表する場を設けることで、学習に対する成就感を得ることにつながった。</p> <p>時間の確保</p> <p>●十分な学習活動の時間を確保するために、調べ学習に取り組む時間と評価に取り組む時間との配分を検討する。</p>	<p>中間発表の実施</p> <p>○自分達の調査結果を報告したり、他のグループの調査結果を聞いたりすることで、自己の学習方法や進行の状況を確実に把握することができた。</p> <p>○新たな課題の発見や学習方法の確立に役立たせることができた。</p> <p>相互評価カードの確認と利用</p> <p>○相互評価カードにより他者から評価を得ることで、自分の学習状況等をより明確に把握することができた。</p> <p>自己評価カード</p> <p>●自己評価カードの内容を整理し、わかりやすいカードの工夫を通して、活用の効率化を図る。</p>	<p>学習(調査)内容の振り返り</p> <p>○自分の学習状況を発表する場をもつことで、学習に対する興味・関心が高まり学習意欲の向上が図られ、活動が活性化した。</p> <p>○仲間の評価、助言が自分の学習状況の補充等に有効であった。</p> <p>個人の学習内容への振り返り</p> <p>○調査につまずいた生徒に適切な助言を与えることで、学習の進め方を見直し、自分の学習目標や課題に適した学習が行われるようになった。</p>
まとめ	<p>学習計画表への本授業の学習内容の記入</p> <p>○学習した内容を計画表に記録することで、学習内容の確認と新たな課題の設定に役立てることができた。</p>	<p>本時の自己評価への支援</p> <p>○教師から生徒の学習状況のさまざまな様子(よい点・見直す等)を示すことで、自分の学習状況を再確認し自己評価を行う際の参考となった。</p> <p>○自己評価を行うことで、自分の学習状況を点検することができた。</p> <p>○次回の学習への意欲付けになった。</p>	<p>前回の学習との比較</p> <p>○前回と今回の学習状況を振り返り、比較することで、自己の学習の問題点や改善された点などを確認することができた。そのことを通して、学習の広がりや深まりに応じた内容を設定することができた。</p>

② 考察

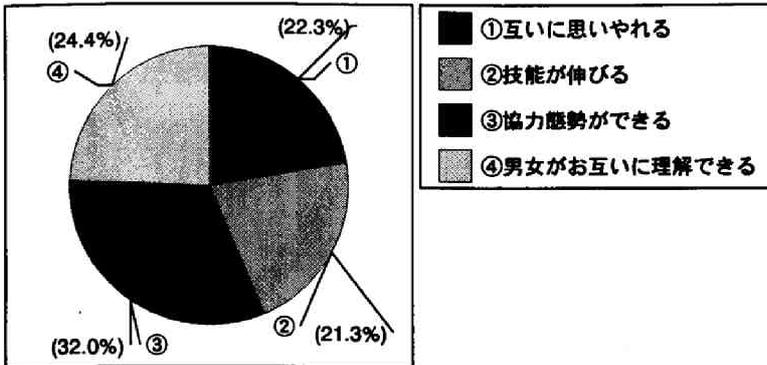
- 学習計画や自己評価活動を行うことにより、生徒は意欲的に学習するようになった。
- 学習計画表に、毎時の振り返り場面を設定することで、生徒が課題解決に向けての見直しをもつことができ、次回の授業に意欲的に臨む姿勢が見られた。
- 学習の流れを明確にした学習計画表や、学習状況に応じた自己評価カードを活用することで、生徒一人一人の学習状況や興味・関心・意欲などの変化を的確にとらえることができた。そのことにより生徒に適切な支援を与えることができた。
- 学習活動の中に計画的に自己評価活動の場面を設定した支援を行った結果、生徒の学習意欲を更に喚起させることにつながった。
- 一時間の中で調べ活動と評価活動に取り組むための時間配分等に工夫が必要である。

5 選択制授業（体育分野・球技）

(1) 意識・実態調査の結果と考察

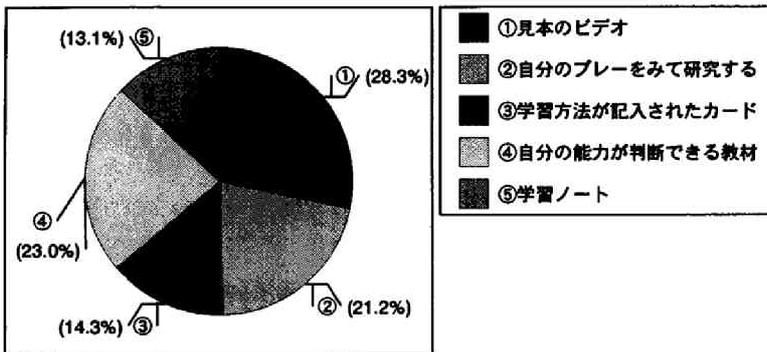
- ① 目的：研究員が所属する各地区の各学校と教員と生徒を対象に、体育の授業の実態及び今後のあり方を調査するとともに、自己評価活動を取り入れた場合の効果と課題について把握する。
- ② 対象：東京都内公立中学校保健体育科教員67名、生徒（第1～3学年男女）2520名
- ③ 生徒対象の調査結果

ア 球技の授業を男女共習で実施する際のよい点はどのようなことですか。



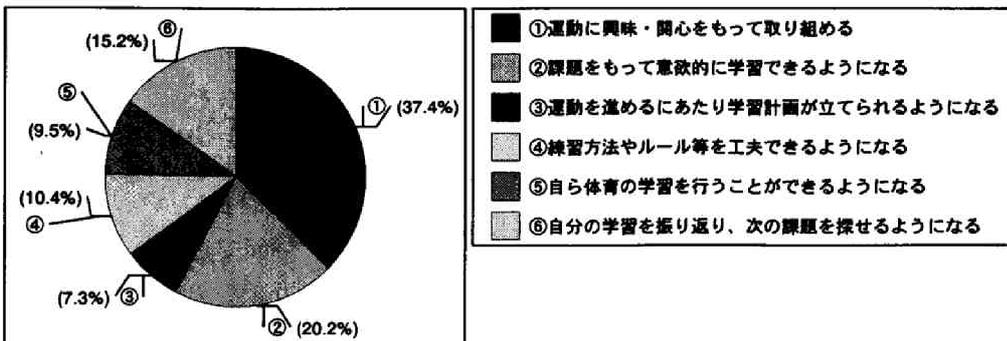
回答数が最も多かったのは「協力態勢ができる」である。次に「男女がお互いに理解できる」「互いに思いやれる」「技能が伸びる」という結果であった。

イ 自分たちで体育の学習を進めるためにどのような学習教材が必要ですか。



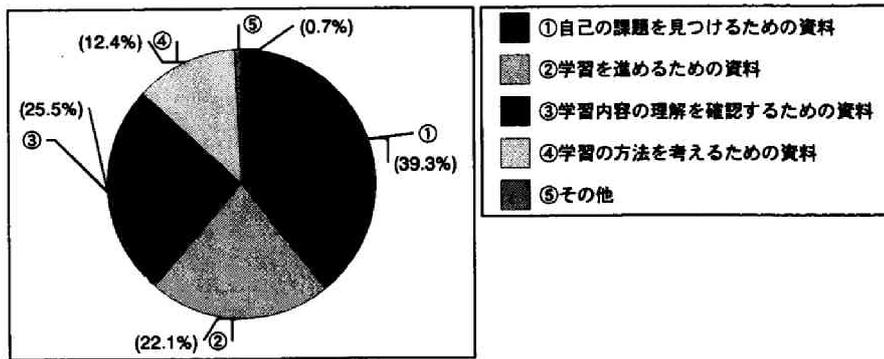
「見本のビデオ」の必要性が最も多く、次に「自分の能力が判断できる教材」「自分のプレーを見て研究する」「学習方法が記入されたカード」「学習ノート」の順であった。

ウ 体育の学習を行なうとき、自己評価をすることによりどのような効果があると考えられますか。



「運動に興味・関心をもって取り組める」と回答した者が37.4%で、「課題をもって意欲的に学習できるようになる」と回答した者が20.2%であった。

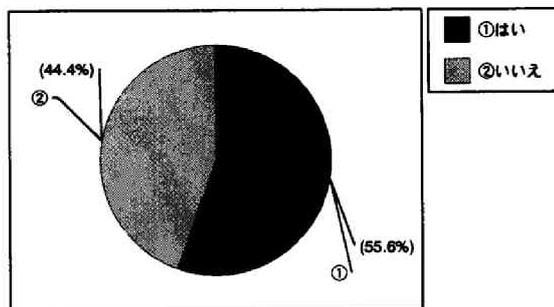
エ どのような資料があれば自己評価が実施しやすいですか。



「自己の課題を見つけるための資料」が最も必要性の高い資料で、次に「学習の内容の理解を確認するための資料」「学習を進めるための資料」「学習の方法を考えるための資料」の順であった。

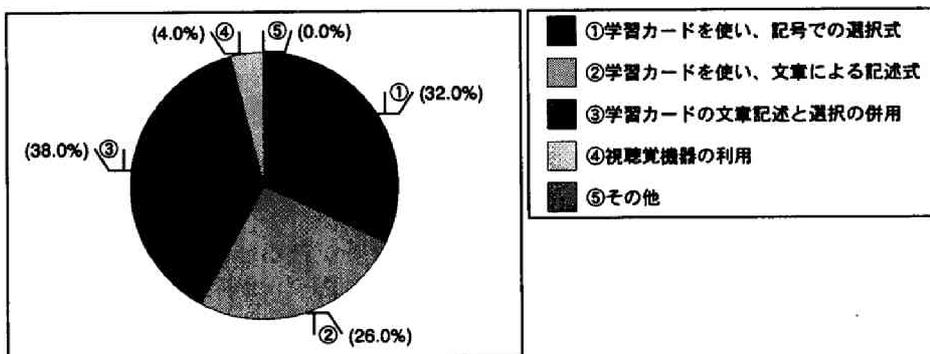
④ 教師対象の調査結果

ア 生徒の自己評価を取り入れた授業を実施していますか。



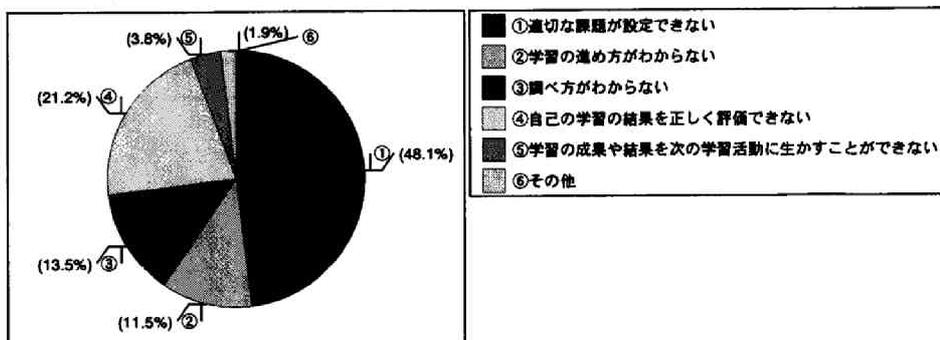
「はい」と答えた学校が55.6%で「いいえ」と答えた学校が44.4%であった。

イ 「実施している」と答えた学校では自己評価をどのような形で実施していますか。



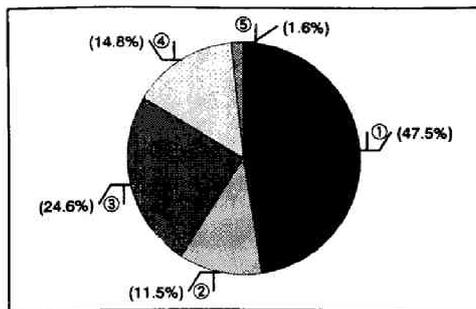
「学習カードの文章記述と選択の併用」が最も多く、次に「学習カードを使い、記号での選択式」「学習カードを使い、文章による記述式」「視聴覚機器の利用」の順であった。

ウ 体育の授業で、生徒が自己評価活動を実施する上での課題はどのようなことですか。



「適切な課題が設定できない」が48.1%、「自己の学習の結果を正しく評価できない」が21.2%、「調べ方がわからない」が13.5%、「学習の進め方がわからない」が11.5%、「学習の成果や結果を次の学習活動に生かすことができない」が3.8%であった。

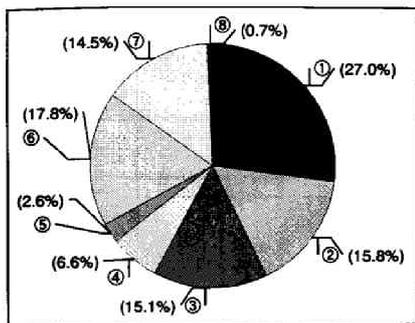
エ 体育の授業で、生徒の自己評価活動を支援するためには、どのような資料が必要ですか。



- ① 自己の課題を見つけるための資料
- ② 学習を進めるための資料
- ③ 学習内容の理解を確認するための基準資料
- ④ 学習の方法を考えるための資料
- ⑤ その他

「自己の課題を見つけるための資料」が47.5%、「学習内容の理解を確認するための基準資料」が24.6%、「学習の方法を考えるための資料」が14.8%、「学習を進めるための資料」が11.5%であった。

オ 自己評価を取り入れた授業を実施し、生徒にどのような変化が見られましたか。



- ① 意欲的に授業に取り組むようになった
- ② 互いに協力して授業に取り組むようになった
- ③ 自己の能力をよく把握して課題に取り組むようになった
- ④ 計画的に練習するようになった
- ⑤ 安全に留意して運動するようになった
- ⑥ 練習方法を工夫するようになった
- ⑦ 自ら課題を設定するようになった
- ⑧ その他

「意欲的に授業に取り組むようになった」が27%、「練習方法を工夫するようになった」が17.8%、「互いに協力して授業に取り組むようになった」が15.8%、「自己の能力をよく把握して課題に取り組むようになった」が15.1%であった。

⑤ 考察

ア 授業の実施形態に望まれるもの

今後ますます男女共習、選択制授業が推進されていくものと考えられるが、現在のところその実施率は十分に高まっていない。まずは、実施することが必要だと思われる。授業形態も教師主導型から、生徒が自ら仲間と協力して練習やルールを工夫する主体的、協力的な学習を積極的に取り入れていくことが大切であると考え。

イ 生徒が主体的な学習を進めるために

生徒は「見本のビデオ」を必要としており、生徒の能力にあった適切なビデオを活用することで、練習方法や技能のポイントが分かり主体的な学習活動が促進される。さらに、「自分の能力を判断できる教材」も揃えば、より効果的である。

ウ 自己評価活動を取り入れた授業の実施にあたって

生徒が自己評価や相互評価に取り組むことにより、多面的に自分を振り返るようになり、自分の能力を的確に把握することができるようになる。さらに、課題に対する興味・関心も高まり意欲的に取り組むようになる。教師は生徒の学習活動がより効果的になるように、生徒が課題を見つけるための資料や学習成果を確認するための学習資料等に工夫を加えなければならない。

エ 自己評価活動の実施上の課題について

教師は生徒が自己評価活動を行うことにより、「意欲的に取り組むようになった」と認めるものの、「適切な課題が設定できない」「自己の学習を正しく評価できない」などの課題から実施できていないのが現状である。これらの課題を解決するため、明確な評価項目の設定や活用方法等を確立し、学習活動が円滑に進むための支援を行うことが必要である。

オ まとめ

生徒が自主的・主体的に授業を行うためには、自分の学習状況を確認する自己評価活動は重要であると考えられる。教師は自己評価カードの評価項目を具体的で、わかりやすい内容にするように工夫し、生徒が評価計画を取り入れた学習計画に基づいて、主体的に学習に取り組めるようにすることが大切である。さらに、教師は学習内容や生徒の習熟の状況に応じて、授業形態を工夫していくことが必要である。

(2) 球技の単元計画例 実証授業2 (第1学年対象 男女共習 13時間扱い)

① 単元計画例作成の考え方

○課題解決に向けた自己評価活動の充実を図るため、評価の観点を明確にし、自己評価の方法と活用の仕方を指導して、生徒が学習活動を主体的に振り返ることができる。

② 単元名 「球技 (バレーボール、バスケットボールより1種目選択)」

③ 学習のねらい

○自己の能力やチームの力を把握して課題を設定するとともに、ゲームを通して課題解決を図ることができる。

○ゲームを通して技能の向上を図るとともに、練習の仕方やルール及びゲームの仕方を工夫することができる。

○学習活動の中に自己評価を取り入れることで、生徒が自己を振り返りながら学習を進めることができる。

段階	時数	ねらい	生徒の学習内容			教師の指導内容		
			学習活動	評価の観点の明確化への支援と工夫		種類	学習計画作成への支援と振り返り活動への支援の工夫	
				生徒の評価活動	学習教材			教師の評価活動
学 習	1	オリエンテーション	<p>これから取り組む運動の特性と学習活動についての理解を通して、学習活動に対する興味・関心を高める</p> <p>○学習の進め方について理解する。 ○バレーボール、バスケットボールの運動とその特性について理解を深める。</p>	はじめの評価	学習ノート ビデオ	診断的評価	学習ノート 評価カード	<p>学習の見通し</p> <p>○学習活動の進め方や学習方法について、見通しをもって意欲的に取り組めるように学習教材を活用し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>○自己の能力の把握を通して課題を設定し、その解決方法を見つけていくよう説明する。</p>
	2			学習の進め方を理解する		学習活動の理解		
	3	選択する運動体験・課題設定	<p>体験ゲームを通して、学習する運動種目に対する自己の準備状況を確認するとともに種目選択につなげる</p> <p>○バレーボール、バスケットボールの2種目のゲームを体験する。 ○体験した種目に対する自己の学習の準備状況を確認する。 ○運動を選択する。 ○学習課題の設定及び学習計画を作成する。</p>	学習に対する準備状況を確認している	学習ノート	学習準備状況の把握	学習ノート 評価カード	<p>学習の見通し</p> <p>課題設定</p> <p>活用方法の指導</p> <p>○自己の興味・関心に応じた種目選択ができるように、体験ゲームの目的を意識付ける。 ○自己の学習準備状況や運動種目に適した課題を設定するために、資料を活用するよう助言する。 ○チェックカードを活用して自己の興味・関心を確認するとともに、体験ゲームを通して学習の準備を把握し、運動種目を選択するよう助言する。 ○体験ゲーム後の自己の学習準備状況の確認を適切に行うために、自己評価カードの活用方法について説明する。</p>
	4			チームの力に応じた課題の設定と学習計画を作成している	学習ノート 実技ノート ビデオ	適切な課題の設定と学習計画の作成		
4	チームの力の把握と課題の設定	<p>適切なチームを編成し、試しのゲームを通してチームの力に応じた課題の設定と学習計画を作成する</p> <p>○チーム編成を行う。 ○試しのゲームを行い、チームの力を把握する。 ○チーム課題の設定と学習計画を作成する。</p> <p>評価 学習の準備状況の自己評価・相互評価を行う</p>	チームの力に応じた課題の設定と学習計画を作成している	学習ノート 実技ノート ビデオ	適切な課題の設定と学習計画の作成	チームカード 評価カード	<p>場面の活用</p> <p>課題設定</p> <p>学習の見通し</p> <p>○自己評価カードを活用して、学習の状況を適切に振り返るように声がけをする。 ○チームや自己の力を適切に把握して課題が設定できるように、学習資料を活用することに気付かせる。 ○個人やグループの課題を解決するために、技能や練習の進め方についてグループごとに助言する。 ○個人やグループが学習計画を進めやすいように、学習カードを活用するよう助言する。</p>	
5			今もっている力で課題解決に向け練習方法を工夫しゲームを行う	学習の中での評価	学習ノート			形成的評価
5		<p>今もっている力で課題解決に向け練習方法を工夫しゲームを行う</p> <p>○能力に応じたルールを工夫する。</p>	学習の中での評価	学習ノート	形成的評価	<p>練習方法やルールを工夫しながら自己の課題解決を図ろうとしている</p> <p>課題解決に向けての合理的な練習方法やルールの工夫</p>	<p>活用方法の指導</p> <p>○学習資料を活用し、自己やチームの課題が解決できるよう助言する。 ○習熟度に応じたルールを設定することにより、関心や意欲が高まることに気付かせる。</p>	

学 習 II	6 ね 7 ら い る	<p>○課題解決に向けた練習内容を工夫する。</p> <p>○今もっている力でまとめのゲームを行う。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ○ルールを工夫して勝敗を競い合う球技の楽しさや喜びを味わおうとしている。 【思考・判断】 ○ゲームの中からチームや自分の課題を明らかにし、その課題解決を図っている。</p> <p>【技能】 ○今もっている力を発揮してゲームを行うことができる。 【知識・理解】 ○合理的な練習の仕方を理解し、知識を身に付けている。 ○ルールを理解し、審判をしている。</p>	評価カード	<p>課題設定</p> <p>○現在の自己やチームの力を把握してゲームに生かし、ゲームを通して次の課題を発見していくことにより充実した練習になることに気付かせる。</p> <p>○自己やチームの力を把握し、力に合った課題を設定することが上達につながることを気付かせる。</p> <p>活用方法の指導</p> <p>○学習カードを活用して、自己やチームの課題解決を図るとともに、学習計画に沿って練習を進めるよう助言する。</p>
	8 ①	<p>学習を振り返り成果の確認をし学習計画を見直す</p> <p>○自己とチームの能力を把握し、学習計画を見直す。</p> <p>評価 今まで学習してきた力を4観点別に自己評価・相互評価する</p>	<p>練習成果から学習計画を見直している</p> <p>学習ノート 自己評価カード</p> <p>練習成果の把握と学習活動の見直し</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○チームにおける自己の役割を自覚し、ゲームに生かさそうとしている。 【思考・判断】 ○ゲームから生じる新たな課題を明らかにし、その解決を図っている。 【技能】 ○自己の力やチームの力を高めるための練習を行うことができる。 【知識・理解】 ○合理的な練習の仕方を理解し、知識を身に付けている。 ○ルールを理解し、審判をしている。</p>	チームカード	<p>活用方法の指導</p> <p>○自己評価カードを活用して、学習の状況を適切に振り返り、個人やグループの課題達成度を把握できるようチェックカードを活用させる。</p> <p>課題設定</p> <p>○自己やチームの高まった力を把握し、課題設定ができるよう資料の活用を促す。</p> <p>学習の見通し</p> <p>○ゲームを振り返り、高まった力で個人やグループの学習課題を設定し、課題解決に向けての学習計画を学習カードに記入するよう説明する。</p> <p>活用場面の工夫</p> <p>○自己評価・相互評価の場面を設定して、自己やチームの力の把握に活用させる。</p> <p>評価カード</p> <p>○自己やチームの今の力を把握するために評価カードの活用を促す。</p>
	9 ね 10 ら い る 11 ②	<p>高まった力に応じた練習とゲーム展開を工夫する</p> <p>○新たな学習計画に沿って高まった力に応じた練習やゲームを行う。</p> <p>○チームの特色を生かしたゲーム展開を工夫する。</p> <p>○ゲームの運営方法を習得する。</p>	<p>学習の中での評価</p> <p>学習ノート</p> <p>形成的評価</p> <p>高まった力で練習やゲームを工夫している</p> <p>高まった力に応じた学習方法やゲームの工夫</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○チームにおける自己の役割を自覚して責任を果たしたり、教え合ったりして互いに協力しながら進んで練習しようとしている。 【思考・判断】 ○ゲームから新たな課題を見つけ、技能向上に伴う作戦を立てている。 【技能】 ○チームや自己の能力に応じた課題の練習やゲームを通して、個人的技能や集団的技能を高めることができる。 【知識・理解】 ○高まった力による集団的技能の構造を理解している。 ○競技の運営方法及びルールや審判の行い方を理解している。</p>	学習ノート	<p>課題設定</p> <p>○自己の高まった能力を把握し、それを高める練習の工夫とゲームに向けて学習資料の活用を助言するとともに、高まった力に適した課題設定ができるよう資料の活用を促す。</p> <p>活用方法の指導</p> <p>○学習資料を活用して、チームの特色を生かしたゲーム展開をするために、チーム一人一人の習熟度を把握するよう助言する。</p> <p>○高まった力による課題解決に向けて、学習資料の活用を促す。</p>
ま と め の 発 表	12 13	<p>今まで行ってきた学習活動のまとめをし、成果を確認する</p> <p>○学習成果を発揮してゲームを行う。</p> <p>評価 学習の成果に対して自己評価・相互評価をしてまとめをする</p> <p>○学習成果と今後の課題を確認する。</p> <p>○スキルテストを行う。</p>	<p>まとめの評価</p> <p>学習ノート 自己評価カード</p> <p>総括的評価</p> <p>これまでの学習の成果を発揮してゲームを行う</p> <p>学習成果の発揮と把握及び今後の自己課題の把握</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○ルールを守り球技の楽しさを味わうとともに、健康や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。 【思考・判断】 ○相手チームの力を的確に把握し、その技能の程度に応じた作戦を立てている。 【技能】 ○自分の技能を発揮し、ゲームを行うことができる。 ○ゲームにおいて作戦に応じた動きをすることができる。 【知識・理解】 ○選択した種目の特性や学習の進め方、集団的な技術や個人的な技能の内容、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を理解している。 ○競技の運営方法及びルールや審判の行い方を理解している。</p>	学習ノート	<p>課題設定</p> <p>○今までの学習の成果を把握し、それらを生かした課題設定ができるよう資料の活用を促す。</p> <p>学習の見通し</p> <p>○個人やチームの学習の成果を、チェック表を活用して把握し、ゲームに生かすよう助言する。</p> <p>活用方法の指導</p> <p>○学習の習熟の程度を把握し、課題を明確にして次の学習に生かせるように、評価カードの活用方法について説明する。</p> <p>活用場面の工夫</p> <p>○自己評価や相互評価を自己やチームの力の把握に活用させる。</p> <p>評価カード</p> <p>○自己評価カードを活用して、学習の状況を適切に振り返れるように声がけをする。</p>

(3) 球技の学習指導計画例（13時間中の7時間目）

- ① 学習のねらい
 ○自己の学習状況を把握し、課題解決に向けた練習を工夫することができる。
 ○工夫したルールでゲームを行い、運動する楽しさを味わうとともに、互いに協力して学習を進めることができる。

段階	生徒の学習内容			教師の指導内容		
	学習活動	評価の観点の明確化への支援の工夫			時期	学習計画の作成及び振り返り活動への支援の工夫
		生徒の評価活動	学習教材	教師の評価活動		
はじめ	学習の準備状況として前時を振り返り、本時の学習活動に対する興味・関心を高める ○前時の学習を振り返り、課題の達成度を把握する。 ○本時の学習内容を確認する。 ○本時における自己やチームの課題を明確にする。	はじめの評価	学習ノート ビデオ	診断的評価	学習ノート	学習の見直し ○前時を振り返り、学習の進め方に見通しがもてるよう学習ノートを活用し、本時の学習内容を計画表にもとづいて確認するよう促す。 課題設定 ○チームや自己の課題を明確にして、練習に取り組めるよう評価カードを確認させる。 活用方法の指導 ○学習資料を活用して前時を振り返り、自己の技能を把握させる。 ○学習カードを活用して、チームの課題解決に向けての練習方法を工夫させる。
		本時の学習内容・計画を確認する [関心・意欲・態度] ○前時を振り返りルールを工夫してゲームの楽しさや喜びを味わおうとしている。 [思考・判断] ○チームや自己の能力に適した課題を設定している。 ○今もっている技能を的確に把握している。 [知識・理解] ○学習の進め方や個人的な技能、練習の仕方を理解している。	学習の準備状況の把握			
なか	今もっている力を活用し、チームや自己の課題解決に向けて学習計画に沿った練習やゲームを行う ○種目別・チーム別に分かれて、チームや自己の課題解決に向けて練習を行う。 ○お互いに工夫したルールの中で、ゲームを行い、本時の練習の成果や新たな課題を把握する。	学習中での評価	学習ノート	形成的評価	学習ノート	活用方法の指導 ○学習教材を活用して、チームや個人の課題解決に向けて合理的に練習が行われるようにする。 ○学習教材を活用して自己やチームの学習状況を把握し、チームの技能に応じた作戦を立てられるよう助言する。 ○学習教材を使って、今もっている自己やチームの能力を把握させる。 課題把握 ○練習やゲームを通して、新たに生じてくる課題を把握するよう助言する。 双方向の評価 ○練習やゲームを通してお互いに評価をしい、互いの能力を把握するよう助言する。
		課題解決に向けた学習活動をしている [関心・意欲・態度] ○チームにおける自己の役割を自覚し責任を果たすとともに、互いに協力しながら進んで学習しようとしている。 ○ルールを守り審判の判定や指示に従い勝敗や結果を受け入れようとしている。 [思考・判断] ○自己の技能に応じた作戦を立てゲームをしている。 ○ゲームの中から自己の役割を明らかにし、責任を果たしている。 [技能] ○今もっている技能を発揮して練習やゲームを行うことができる。 [知識・理解] ○集団的な技能や個人的な技能を高める練習の方法を理解している。 ○ルールや審判の仕方を理解している。	課題解決に向けた練習やルールの工夫			
まとめ	本時の学習活動のまとめをし、学習成果の確認と新たに生じた課題の確認をする ○本時の学習を振り返り、学習成果の確認や課題の達成度を把握する。 自己評価・相互評価 ○新たに生じた課題を確認し次回に生かす。	まとめの評価 本時を振り返り、自己の学習成果を適切に把握することができる [関心・意欲・態度] ○本時の学習を振り返り、自己の学習状況を正確に把握しようとしている。 [思考・判断] ○ゲームから生じるチームや自己の新たな課題を明らかにし、その解決を図っている。 ○技能の向上に伴う新たな作戦を立てている。 [技能] ○今もっている力で練習やルールを工夫してゲームを楽しむことができる。 [知識・理解] ○新たな課題解決に向けての合理的な練習の仕方や、練習計画の立て方を理解している。	学習ノート 実技ノート 総括的評価 学習成果の把握と次回の課題の確認	学習ノート グループカード 総括的評価 活用場面 評価カード	活用方法の指導 ○評価カードを活用し自己の学習成果を把握するとともに、習熟の程度が理解できるよう助言する。 ○グループカードを使ってグループの学習成果を把握し、次回の活動に生かせるよう助言する。 活用場面の支援 ○自己やチームの学習成果の確認をするために自己評価・相互評価活動の場面を設定する。 ○自己評価カードを活用して本時の学習状況を振り返り、新たに生じた課題を次回に解決するためまとめておくよう助言する。 ○自己評価カードを活用して、本時を適切に振り返れるように声がけをする。	

- ② 本時の評価
 ○本時の学習を振り返り、自己やチームの能力を把握することができたか。
 ○課題解決に向けて意欲的に資料等の活用をすることができたか。
 ○今もっている力でルールを工夫してゲームを楽しむことができたか。

(4) 学習資料例
○毎時間ごとの学習カード

年 級 課 題 氏 名

毎時の学習の記録 (自己評価・チーム評価)

1時間 月 日 曜日 校時

目的	オリエンテーションを通して自分の目標	達成状況	5-4-3-2-1
内容	オリエンテーションを通して自分の目標	達成状況	5-4-3-2-1

2時間 月 日 曜日 校時

目的	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1
内容	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1

3時間 月 日 曜日 校時

目的	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1
内容	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1

4時間 月 日 曜日 校時

目的	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1
内容	バレーボールの基礎動作を習得し、実践できること	達成状況	5-4-3-2-1

○評価を取り入れた学習計画表

体育実技 学習計画表 (球技)

項目名	バレーボール			
年 級	年 級	年 級	年 級	キャプテン
年 級	年 級	年 級	年 級	副キャプテン
年 級	年 級	年 級	年 級	マネージャー
年 級	年 級	年 級	年 級	学年
年 級	年 級	年 級	年 級	学年

1. 学習計画表

時間	実施日	学習計画	学習状況
1時間目	月 日 ()	オリエンテーションを通して、自分の目標を設定する	白・相・教員
2時間目	月 日 ()	基礎 バレーボール 個人練習 チーム練習①	白・相・教員
3時間目	月 日 ()	バレーボール 個人練習 チーム練習②	白・相・教員
4時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
5時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
6時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
7時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
8時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
9時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
10時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
11時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
12時間目	月 日 ()	練習Ⅰ	白・相・教員
13時間目	月 日 ()	全体のまとめ (自己評価・アンケート実施)	白・相・教員

○技能の習熟度チェック

バレーボール 個人チェックリスト

技能	チェック項目	2時	3時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
個人的技能	パス	ボールの落下点に移動し、ボールをとらえることができる。									
	スパイク	ジャンプをして打つことができる。最高でボールを打ち、相手のコートに入る。									
	ブロック	相手の動きにあわせて早くジャンプし、手を出さなければならない。相手にあわせてジャンプし、タイミングよくボールをブロックしている。									
集団的技能	サーブ	打ちやすいところにボールをトスし、腕を大きく振り、ボールの中心を手のひらで打っている。相手コートに入れることができる。									
	レシーブ	相手のチームのサーブ、スパイクをレシーブし、自分のチームの攻撃につなげている。									
	パス攻撃	声をかけ、ボールをつなぎ、相手チームにパスで攻撃している。声をかけレシーブ、トスとボールをつなぎ、相手チームにスパイクで攻撃している。									

○ルール工夫 (毎時間ごとの活動を評価する)

バレーボール 学習計画カード
ルールの工夫 (できたこと、使ったルールに○印を付けよう)

ルール	内 容	2時	3時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
チームの人数	1チーム6人でプレーする										
高さ・球速	ラリーポイント間で25 高、ジュニアの場合は2点差がつくまで										
審判	審判をつける。審判の役割を覚える										
ローテーション	サーブ権を失った後、プレーヤーが時計回りにひとつ										
サービスのコート	ポジションをとる。サービスが相手のコートに入らない										
フットフォールト	エンドラインを踏んだら罰点が入る										
キャッチボール	一時的にボールを停止させる。ボールを明確に打たない										
ダブルコンタクト	一人のプレーヤーが連続して2回以上ボールにふれる										
フォアヒット	ボールを相手コートに運ぶまでに										

○学習の区切りで使用する (学習の理解や習熟の状況を把握する)

(5) 実証授業のまとめと考察 (○は成果、●は課題)

① 結果

	学習計画作成の支援	自己評価の観点の明確化	振り返り活動への支援
はじめ	<p>計画開始の活動</p> <p>○作成されている学習計画表により、前回の時間の反省と本時の活動の目標が明確になった。</p> <p>●班や選択種目に適したウォーミングアップ、クールダウンの計画も取り入れる。</p>	<p>自己の活動の確認</p> <p>○準備や計画の段階から、お互いに個人の目標やグループの取り組み方を確認し合うことで、目標やねらいがより明確になり意欲的に授業に臨むことにつながった。</p> <p>●授業の開始などもグループごとに計画した予定で始めることが大切である。</p>	<p>振り返り内容の確認</p> <p>○自己評価が振り返りの活動を促し、学習すべきことや各自の役割を明確にするので、学習活動がスムーズに開始された。</p> <p>●教師はあらかじめ各班の行動予定を把握し、学習活動の充実と効率化を図る。</p>
なか	<p>計画した行動の実践</p> <p>○あらかじめ学習計画が確認されているため、練習やルールの工夫などの学習活動がスムーズに実践された。</p> <p>●班ごとに、自分たちの計画に沿って練習を進めてはいたが、練習の目的や動き方にアドバイスをしたり、資料の見直しをさせるなどの指導・助言を行う。</p>	<p>自己の活動の実践</p> <p>○自己評価や相互評価を実施することにより、その時間の練習や試合における各個人の意識が高まり、考えて行動している生徒が増えた。</p> <p>●学習課題の達成やつまづきへの支援を図るために、教師は学習の場面に応じた的確な指導・助言を行う。</p>	<p>活動の中の振り返りの確認</p> <p>○評価活動の結果から生徒は、技能のアドバイスボードを班ごとに確認して練習の参考にしていった。また、ルールの工夫の場面においても全員でルールを確認することにより共通理解が図れ、効果が大きかった。</p> <p>●学習の振り返りを効果的にするために、学習資料を学習のはじめだけではなく、途中にも活用するよう指導・助言を行う。</p>
まとめ	<p>計画の確認</p> <p>○授業後の生徒の評価の中に、「班ごとの練習や作戦の工夫により、自分なりの喜びや達成感を味わうことができた」という感想が多かったことは、生徒が主体的に学習に取り組む授業形態は意欲の向上に有効であった。</p>	<p>自己の活動の確認</p> <p>○本時の授業内容に合った観点を示すことで、自己の意欲、技能の向上等について自分を見つめ直すことができた。</p> <p>○次回の学習への意欲付につながった。</p> <p>●自己評価活動に取り組むための時間の確保等の工夫を図る。</p>	<p>振り返りの活動</p> <p>○前回の学習状況との比較を通して、仲間との協力や技能の上達等を的確に把握することができた。</p> <p>○評価活動を通して、生徒の率直な意見や感想を聞くことができ、教師と生徒のコミュニケーションの充実を図るとともに、学習改善に役立った。</p>

② 考察

- 生徒は学習計画の作成や自己評価活動をすることにより、個人の目標や課題が明確になり、意欲をもち主体的に行動するようになった。
- 自己評価が個人やグループの能力にあわせてできるように作成されているため、学習の進展や技能の向上の様子がよくわかるようになった。
- 運動量と自己評価活動の時間をより適切に配分することを検討する。
- 技能をより向上させるためには、自分自身で解決することのできる資料の工夫やチームティーチング等がより効果を上げると考える。

6 自己評価活動と学習活動との関連

(1) 自己評価活動を効果的に行うための学習教材の考え方

自己評価活動を効果的に行うためには、生徒が自己評価の意義を理解し、評価方法を把握できることが必要である。そのためには、教師の支援として、主体的に学習活動を行うことのできる学習教材の工夫が重要となる。

学習教材を作成するに当たっては、①学習の様々な場面に適した内容であること、②興味や関心をもて、意欲が高まる内容であること、③簡易で活用しやすい内容であること、等を考慮しなければならない。

(2) 評価場面と学習教材の関連について

診 断 的 評 価	学習に先立って教師と生徒が行う評価である。生徒がどのような欲求や能力、適性をもっているのか等を把握するために行い、生徒は自分の適性や能力をより生かすことのできる課題や学習計画を設定することができるようになる。	
	評 価 項 目	学 習 教 材
	①学習内容・進め方の把握	学習ノート、資料
	②知識・技能の確認	アンケート・試しのゲーム
	③学習内容についての興味・関心	学習ノート、資料
	④評価活動の意義・方法の理解	アンケート
	⑤課題の設定	学習ノート、資料
	⑥グループの編成	学習ノート、アンケート
⑦学習計画の立案	学習ノート、アンケート	

形 成 的 評 価	生徒が自分の選んだ課題を主体的に学習していく中で、学習内容の習得状況を把握するために教師と生徒が行うものである。そのことにより、学習状況に対する教師と生徒の理解が深まり、より興味をもって意欲的に活動できるようになるとともに、学習内容に対する理解も深まるようになる。	
	評 価 項 目	学 習 教 材
	①課題解決に向けての活動	学習ノート、資料
	②学習活動の振り返り	自己評価表（毎時間）
	③グループ内での相互評価	相互評価表
	④課題の見直し	学習ノート、資料
	⑤学習計画の見直し	学習ノート、資料
	⑥学習方法の見直し	学習ノート、資料
	⑦グループ間での相互評価	相互評価表
⑧学習内容の補充	学習ノート、資料	

総 括 的 評 価	課題を達成した時に、それまでの学習の伸びを確かめるために行うものである。生徒は自己の学習状況を正しく判断し、次回に生かすことができるようになる。	
	評 価 項 目	学 習 教 材
	①学習活動のまとめ	学習ノート、資料
	②興味・関心の高まり	学習ノート、アンケート
	③思考力・判断力の定着	学習ノート、アンケート
	④技能の向上	学習ノート、テスト
	⑤知識・理解の深まり	学習ノート、テスト
	⑥次回の学習活動への生かし方	学習ノート
⑦今後の生活への生かし方	学習ノート	

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

「自己評価活動を行うことによって、生徒は自ら学習活動を振り返り、新たな課題や目標をもって主体的に学習活動に取り組む学び方を身に付ける」という考えのもと、3つの視点から自己評価活動を活用した学び方の支援の工夫を行った結果、生徒に様々な変容が見られた。

1 まとめ

(1) 学習計画作成のための支援

- ① 課題設定のための支援の工夫について、保健では、オリエンテーションや振り返りの段階で、課題設定に向けた学習資料や評価カードを活用し、体育では、試しのゲームやスキルチェックカードを活用した。その結果、自己の興味・関心や資質・能力の高まりとともに自己理解も深まり、課題発見や課題設定に有効であった。
- ② 生徒が導入でオリエンテーションカードを活用したり、学習の途中で、学習ノートや学習資料を活用したことは、学習活動に見通しをもち、主体的に学習に取り組むことにつながった。

(2) 評価の観点の明確化

- ① 学習活動の展開に応じて作成した観点表を用いて自己評価活動を実施した結果、生徒が自分の学習の習熟の程度を確認することで、学習活動の目的やねらいをより明確にすることができた。
- ② 学習の習熟の程度を確認する評価カードの工夫については、4観点に基づいた評価カードを作成し活用した。そのことにより学習の達成状況についての自己理解が図れ、能力の伸長とともに、学習活動に対する意欲や、難しい課題についても克服しようとする態度が育成された。
- ③ 学習状況の気付きや成果を確認する双方向の評価カードの工夫については、評価活動の中に相互評価を積極的に取り入れることで、他者の意見やアドバイスを積極的に聞き入れようとする態度が育成され、自分の課題への気付きや互いの良さを認め合い、高め合おうとすることにつながった。

(3) 振り返り活動

- ① 評価場面の設定については、単元や一単位時間の区切りに学習を振り返る場面を設定することで、目的や到達度が確認できるとともに、次の学習活動に向けての課題意識と意欲を明確にもたせることができた。
- ② 活用方法の指導については、評価カードや学習教材の活用の仕方を、個に応じて丁寧に支援することで、的確で効率的な評価活動ができるようになった。
- ③ 学習教材の工夫については、学習の目的やねらい、学習の展開や技能の習熟等に応じた学習教材を活用することで、意欲や自己理解の高まりとともに、自己評価能力の育成に有効であった。

2 今後の課題

- (1) 学習計画の作成や課題設定及び学習の見通しをもたせるための学習資料の活用によくの時間が費やされるため、生徒がわかりやすく、効率的に取り組める教材のさらなる工夫が必要と考えられる。
- (2) 評価の観点について、生徒に具体的でわかりやすい言葉で提示する必要がある。
- (3) 振り返りの場面において、生徒一人一人に対する教師の適切なアドバイスが有効であるので、生徒を伸ばす助言の工夫が必要である。
- (4) より充実した授業とするため、チームティーチングも有効な方法であるとする。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン